

# 日本古生物学会第163回例会

2014年1月24日（金）～1月26日（日）

兵庫県立人と自然の博物館

共催：兵庫県立人と自然の博物館 兵庫県立大学自然・環境科学研究所

## \*\*\*\*\* 1. プログラム概要 \*\*\*\*\*

### 1月24日（金）会場：ホロンピアホール

- 【13:00-16:30】シンポジウム「古生代化石研究の最前線」…………… ii  
【18:00-20:00】懇親会（三田ホテル）…………… ii

### 1月25日（土）会場：ホロンピアホール・ポスター会場・A-C会場

- 【10:00-11:50】学術賞受賞記念特別講演…………… iii  
【13:00-14:00】一般講演 ポスター発表コアタイム（ポスター会場）…………… iii-v  
【14:00-15:30】一般講演 口頭発表1（A～B会場）…………… v  
【15:45-17:00】一般講演 口頭発表2（A～C会場）…………… vi-vii  
【17:30-17:40】ポスター賞表彰式（大会本部付近）…………… vii  
【17:40-】夜間小集会（B会場）…………… vii

### 1月26日（日）会場：A-C会場

- 【10:00-11:45】一般講演 口頭発表3（A～C会場）…………… vii-viii  
【13:00-14:00】化石友の会 ひとつはく恐竜ラボツアー…………… viii

- 発表方法と発表機器についての注意事項（必ずお読み下さい）…………… ix  
交通案内・会場案内…………… x

2013年年会参加費 一般会員・非会員3000円 友の会会員・学生会員1000円  
高校生以下・高校生ポスター発表関係者無料（予稿集は有料500円）

## \*\*\*\*\* 2. プログラム 詳細 \*\*\*\*\*

### 1月24日(金) ホロンピアホール シンポジウム「古生代化石研究の最前線」

コンビナー：小林文夫(兵庫県立大学／兵庫県立人と自然の博物館)・古谷 裕(兵庫県立大学／兵庫県立人と自然の博物館)・竹村厚司(兵庫教育大学)

グローバルな地球環境変動および生命史研究の進展にともない、古生代に関しても新たな視点から研究が進められるようになった。国内の研究者も、国内のみならず海外の好適な地域での調査を行い、高精度の層相・群集解析を行い、層序、古生態、環境変動、大量絶滅、機能形態などの地球生命史にかかわる問題をグローバルな視点から精緻に再検討している。さらに、それらの成果は総合化・法則化され、生命史における重要な進化仮説として世界に提案され、国際的にも高く評価されている。本シンポジウムでは、我が国における古生代化石研究の最新の事例を紹介し、現状を分析し、今後の研究の方向性と新たな展開を探る。

13:00-13:10 趣旨説明 小林文夫

13:10-13:35 **フズリナ生層序と浅海成炭酸塩岩の堆積記録から読み解く揚子地塊の微細な造構運動** 上野勝美(福岡大学)・早川直樹(福岡大学)・中澤努(産総研・地調)・王玥(南京地古研)・王向東(南京地古研)

13:35-14:00 **中期古生代コノドントの分類および生層序：特に角状コノドントの研究について** 上松佐知子(筑波大学)

14:00-14:25 **三葉虫の機能形態と古生態** 鈴木雄太郎(静岡大学)

14:25-14:45 休憩

14:45-15:10 **放散虫化石群集と珪質岩相から見たパンサラッサ海深海底の P-T 境界環境変動** 佐野弘好(九州大学)・桑原希世子(芦屋大学)・八尾 昭(大阪市立大学)・上松佐知子(筑波大学)

15:10-15:35 **揚子地塊における礁生態系の変遷と地球生物環境** 江崎洋一(大阪市立大学)

15:35-16:00 **古生代末の大量絶滅と統合版「プルームの冬」シナリオ** 磯崎行雄(東京大学)

16:00-16:10 休憩

16:10-16:30 総合討論

### 【18:00-20:00】懇親会

懇親会は予約制です。参加を希望される方は、必ず事前にメールかハガキで1月17日(金)までにお申し込み下さい。Webでお申し込みされた方はご連絡の必要はございません。

会場：三田ホテル 〒669-1321 兵庫県三田市けやき台1丁目11番2

懇親会会費：一般会員・非会員 5,500円、学生・友の会会員 3,500円

申込先：池田忠広(兵庫県立人と自然の博物館) E-mail: [tikeda@hitohaku.jp](mailto:tikeda@hitohaku.jp)

電話：079-559-2001, FAX：079-559-2007

ハガキでの申込先：〒113-0033 東京都文京区本郷7-2-2 本郷MTビル401号室 日本古生物学会事務局 03-3814-5490

1 月 25 日 (土)

学術賞受賞記念特別講演 会場：ホロンピアホール

【10:00~10:50】「鱗竜類（爬虫類、双弓類）の古生物学的研究」佐藤たまき

【10:50-11:00】休憩

【11:00~11:50】「生痕学礼賛」奈良正和

【11:50-13:00】昼休み

【13:00-14:00】一般講演 ポスター発表コアタイム

- P01: 瑞浪市化石博物館展示室小規模改装グループ (安藤佑介・柄沢宏明・須藤茂美・青山哲也・砂田普司・小木曾智徳・甲能直樹・中上野太・山本浩司) 瑞浪市化石博物館が2012, 2013年に設計・製作した束柱目の復元画および復元模型
- P02: 新村龍也・安藤達郎・澤村寛 足寄動物化石博物館での復元資料制作とその利用
- P03: 小田隆・三枝春生・荻野慎諧 丹波竜復元画の制作過程とその意義
- P04: 荻野慎諧 脊椎動物化石の3D骨格復元
- P05: 黒須弘美・菊池直樹・廣瀬浩司 熊本県天草市御所浦町の下部白亜系烏帽子層より産出した鳥脚類の歯化石について
- P06: 加藤敬史 漸新統佐世保層群産炭獣類化石
- P07: 増田理沙・実吉玄貴・西戸裕嗣・Khishigjav Tsogtbaatar・Tsogtbaatar Chinzorig・Buurei Mainbayar 恐竜化石を産出するモンゴル上部白亜系風成層を構成する石英のカソードルミネッセンス特性
- P08: 鏝本武久・名取真人 成長過程における距骨および踵骨のサイズと形態の変異：現生ニホンザルの幼獣の例
- P09: 半田直人 信州新町化石博物館所蔵の西澤 勇コレクションのサイ科切歯化石
- P10: 武内周・実吉玄貴・西戸裕嗣・Khishigjav Tsogtbaatar・Tsogtbaatar Chinzorig モンゴルのゴビ砂漠産恐竜化石に残された生痕化石のタフォノミー
- P11: 實吉玄貴・増田理沙・西戸裕嗣・Khishigjav Tsogtbaatar・Tsogtbaatar Chinzorig・Buurei Mainbayar 石英の結晶化学的性質を用いたモンゴル産盗掘恐竜化石の産地同定に関する検証
- P12: 簗本美孝・御前明洋・大橋智之・小松俊文・三宅優佳・前川匠・真鍋真・平山廉・楠橋直 鹿児島県下甕島北部の上部白亜系姫浦層群から産出した板鰓類化石
- P13: 御前明洋・岡本隆・前田晴良 白亜紀異常巻アンモノイド *Pravitoceras* の殻形成過程の復元とその進化学的意義
- P14: 上原亮・安藤寿男 北海道遠別—中川地域上部白亜系蝦夷層群函淵層における大型軟体動物化石のタフォノミー
- P15: 竹田裕介・棚部一成・Neil Landman・佐々木猛智 白亜紀後期北米内陸海におけるスカフィテス科アンモノイド類の殻にみられる被食痕の解析
- P16: 藤田将人 富山市大沢野地域の手取層群から発見された二枚貝化石
- P17: 平田泰之・南翔平・足立奈津子・江崎洋一 和歌山県由良町地域に認められる厚歯二枚貝を産する特異な礁の特徴と形成様式

- P18: 久保貴志 下部ジュラ系から産出する“*Ostera*”の古生態
- P19: 菊池直樹・近藤康生 房総半島三浦層群千畑層から産出するオオハネガイ類
- P20: 宮嶋佑典・小池伯一・渡邊裕美子・松岡廣繁 中部中新統別所層の泥岩中に見られるシロウリガイ類コロニーと硫化水素濃度
- P21: 高月崇成・近藤康生・菊池直樹 宮崎層群川原層における *Chlamys* の生き埋め産状と *Chlamys* 密集層の堆積史
- P22: 山岡勇太・近藤康生 現生種二枚貝トドロキガイからタマキガイへの進化：両種の成長様式に着目して
- P23: 大田和大・栗原行人 岩村層群遠山層久保原相から産出する 前期中新世貝類化石群の分類学的再検討
- P24: 鈴木明彦・圓谷昂史 北海道余市湾沿岸における 2012 年秋のアオイガイの大量漂着
- P25: 岡西政典・千徳明日香・藤田敏彦 ツルクモヒトデ目（棘皮動物門，クモヒトデ綱）の分子系統解析と骨片の形態に基づく新分類体系
- P26: 岩谷北斗・Sansfica M. Young・入月俊明・三瓶良和・石賀裕明 スリランカ、トリンコマリ湾における現生貝形虫群集の分布と底層環境
- P27: 兼子尚知・田沢純一 日本の古生代腕足類タイプ標本の現状
- P28: 伊藤剛・Feng Qinglai・松岡篤 ペルム紀中世放散虫 *Pseudoalbaillella* の short form とその起源
- P29: 赤松孟・奈良正和 漸新統芦屋層群陣ノ原層のシーケンス層序と生痕化石群集
- P30: 村田崇行・Li Gang・安藤寿男・長谷川精・長谷川卓・太田亨・山本正伸・長谷部徳子・Ichinnorov Niiden モンゴル南東部ゴビ砂漠シネフダグ地域の下部白亜系湖成層におけるカイエビ化石のタフォノミーおよび古生態
- P31: 齋藤めぐみ・林辰弥・谷村好洋 中新世の湖沼生珪藻 *Actinocyclus* 属の時空分布についての一考察
- P32: 千徳明日香・森寄仁美・大野理恵・江崎洋一・升本眞二・富山隆将 マイクロフォーカスX線CT画像を用いたサンゴ骨格癒合部の内部構造の解析
- P33: Mamo Briony・Strot ZLuke・Brock Glenn・Valentine James・Dominey-Howes Dale・豊福高志 オーストラリア GBR カプリコーングループの炭酸塩生態系に見られる底生有孔虫群集解析
- P34: 瀬戸口貴志・大串健一・池原実・内田昌男・阿波根直一 有孔虫酸素同位体比に基づく最終氷期以降の北海道沖の海洋環境変遷
- P35: 大橋陽子・北村晃寿・伊藤泰弘 伊豆半島南部沿岸に分布する隆起貝層の高度と年代
- P36: 辻本彰・野村律夫 山陰沖における過去約 50 年間の環境変動と底生有孔虫群集の変化
- P37: 酒井佑輔・関戸信次・松岡篤 白山区の下部白亜系手取層群より産出する *Zamites* を含む植物化石群集
- P38: 愛甲健太・奈良正和 中新世西南日本弧前弧域の古生態学：三崎層群養老層の生痕フアブリック解析
- P39: 瀬尾菜々美・大串健一 2011年東北地方太平洋沖地震による津波堆積物中の有孔虫・粒度組成—久慈市、東松島市・石巻市の事例
- HP1: 高見慧一 茨城県の更新統からのマヒトデ科ヒトデ印象化石の発見
- HP2: 山元拓実・上田賢輔・河村祐希・西川直・福坂智也 岡山県黒島海岸調査および海藻とワレカラの関係

HP3: 中村亮祐・林真大・中奥祐樹 形態およびミトコンドリア DNA によるカメノテの系統地理  
 HP4: 濱田幸典 酸処理で得られた葛生地域微小腕足動物化石について  
 HP5: 島袋健太・新垣孝之・仲嶺昂賢・末吉顕己・渡慶次康仁・吉田柊太・知念幸子 ネズミ化石の研究 ～トクノシマトゲネズミとオキナワトゲネズミの骨格を比較して～  
 HP6: 林真大・小田将平・中奥祐樹・中村亮祐 雑種として扱われてきたタンポポの葉緑体 DNA 解析

## 【14:00-15:30】一般講演 口頭発表 1 (A~B 会場)

A 会場	B 会場
古脊椎動物の部(1) 座長: 甲能直樹	形態解析の部 座長: 椎野勇太
A01 w: 林昭次・渡部真人・Burns Michael・Stein Martina・Sander Martin 骨組織学的アプローチから復元する鎧竜類恐竜の成長様式	B01 w: 松岡篤・吉野隆・岸本直子・石田直人・栗原敏之・木元克典 チューリングモデルと放散虫の殻形成 – 中生代スプメラリア <i>Pantanellium</i> を例として
A02 w: 高橋啓一・馬場理香・北川博道 CT 撮影装置を用いたゾウ臼歯化石の撮影実験	B02 w: 大野理恵・千徳明日香・升本眞二・江崎洋一 キサンゴ科群体サンゴにおける個体間干渉 – テリトリーによる検証・続報 –
A03 w: 村上瑞季 マイルカ上科の系統・進化・古生物地理と今後の研究課題	B03 w: 渡辺理世・河潟俊吾・鈴木紀毅・上栗伸一・相田吉昭 赤道太平洋における始新世中期–後期の放散虫化石 <i>Lampterium</i> 亜属の形態変遷
A04 w: 北川博道 本邦更新統産大型クマ化石は本当にヒグマ ( <i>Ursus arctos</i> ) なのか	B04 m: 野下浩司 腹足類殻の巻きパタンの定量化: 成長管モデルパラメータ一定の場合
A05 w: 木村敏之・加藤久佳・石井明夫・伊左治鎮司・高桑祐司・岡崎浩子 千葉県更新統下総層群木下層よりヒゲクジラ類化石の産出	B05 w: 藤原慎一 宙ぶらりんの肩帯位置復元問題 – 四足歩行性四肢動物が姿勢バランスを保つ最適位置を探る
A06 w: Felix G. Marx・R. Ewan Fordyce Leviathans sporting on the foaming waves – the evolutionary relationships of baleen whales	B06 w: 河合巧幾・藤原慎一 カニのハサミのはさむ効率・脱臼安全指数と食性の関係

【15:30-15:45】休憩

【15:45-17:30】一般講演 口頭発表2 (A~C 会場)

A 会場	B 会場	C 会場
古脊椎動物の部(2) 座長: 藤原慎一	進化・分類・生物地理の部 座長: 佐々木猛智	古生態の部 座長: 近藤康生
A07 w: 高津翔平・Sardsud Apsorn・Doungrutai Saesaengseerung・Pothichaiya Chedchan・上松佐知子・指田 勝男 タイ国東北部 Khorat 層 群における恐竜類足跡化石相 とその多様性	B07 m: 平沢達矢・倉谷滋 横隔膜の進化的起源研究に おける新展開	C07 w: 西山千尋・塚越哲・ 中尾有利子 貝形虫 <i>Palusleptocythere migrans</i> の 生態と干潟環境への適応
A08 m: 森浩嗣・Patrick S. Druckenmiller・Gregory Erickson アラスカ・プリンス クリーク層から見つかった <i>Edmontosaurus</i> sp.の幼体の分 類について	B08 w: 香取祥人・林誠司 東アジア地域におけるオリ イレヨフバイ科の進化史の 研究	C08 w: 椎野勇太・鈴木雄太 郎・森英樹 滑らかな殻を持 つ大型腕足動物ホロリンカ スー示準化石となることへ の意義を探る
A09 m: Fiorillo Anthony・小林 快次・Hasiotis Stephen 米国ア ラスカ州から発見された恐竜 メガトラックサイト: 極圏恐 竜行動についての意義	B09 m: 松原尚志 ムカシフ クレドブガイ (二枚貝綱:イ シガイ科) に対する有効名 の再検討	C09 m: 足立奈津子・小谷綾 香・江崎洋一・劉建波 北中 国山東省カンブリア系第三 統から産出する海綿-微生物 類礁の構築様式と発達の 意義
A10 w: 三枝春生・池田忠広・ 半田久美子 兵庫県の下部白 亜系篠山層群産竜脚類の尾椎 に見られる独特の形質につい て	B10 w: 佐野晋一・Masse Jean-Pierre 北海道中央部双 珠別地域の白亜系蝦夷層群 から産した原始的なラディ オリテス科厚歯二枚貝	C10 m: 中澤努・上野勝美・ 野々村奈美・藤川将之 秋吉 石灰岩下部ペルム系 Artinskian における巨大オ ンコイド・微生物岩の多産 と干潟堆積物の発達
A11 m: 小林快次・イユンナ ム・リンチェンバルズボル ド・ダーラザレニトスキー・ 田中康平・イハンジェ・久保 田克博 モンゴルから初めて 発見された恐竜営巣地による テリジノサウルス類の巣行動 の解明	B11 m: 狩野彰宏・古山精史 朗・杜佛 貴州省北東のエデ ィアカラ系から産出した海 綿様化石	C11 w: 石川牧子・鍵裕之・ 佐々木猛智・遠藤一佳 貝殻 の色はどのように決まるの か?: 貝殻色素化合物と分 子基盤
A12 m: 小林快次・西村智弘・ 櫻井和彦・千葉謙太郎・田中 康平・佐藤たまき 北海道むか わ町穂別の上部白亜系函淵層 から発見されたハドロサウル ス科恐竜化石発見の報告	B12 w: 宮崎耀司・塚越哲 若狭湾産間隙性貝形虫類の 分類と駿河湾産間隙性貝形 虫類との比較	C12 m: 中島礼・加瀬友喜・ 荒川真司 更新世の巨大ホ タテ <i>Mizuhopecten kamagai</i> の古生態

A13 w: 田中康平・Zelenitsky Darla 主竜類の営巣様式の進化	B13 w: 森成大輔・塚越哲 静岡県三保真崎海岸産間隙性貝形虫類の分類と生態	C13 w: 田近周・NaglikCarole・森本直記・Pascual-CebrianEnric・HennhoferDominik・KlugChristian ジュラ紀アンモナイト <i>Normannites</i> の殻口に形成される突起の構造・機能形態学
--	---	---

## 【17:30-17:40】ポスター賞表彰式（大会本部付近）

## 【17:40～】夜間小集会（B会場）

### 篠山層群復元画丹波プロジェクトの全貌

世話人：小田隆（成安造形大学）

古生物学の普及にあたって、アーティストと研究者の協業は、いわば自然科学分野における産と学の連携といえるものです。兵庫県丹波市の依頼により、2012年・2013年の二ヶ年、総額800万円の恐竜復元画のプロジェクトが立ち上がりました。自治体という官も加わることによって、産学官の連携が実現しました。現在までの取り組みとその成果を示しながら、今後の取るべき道筋を、プロジェクトスタッフの研究者、丹波市恐竜を活かしたまちづくり課ともに考えたいと思います。

1月26日（日）

## 【10:00-11:45】一般講演 口頭発表3（A～C会場）

A会場	B会場	C会場
古脊椎動物の部(3) 座長：村上瑞季	生層序の部 座長：上松佐知子	古環境の部 座長：北村晃寿
A14 m: 藪本美孝・桜井憲二 北海道羅臼町産中新世カサゴ亜目魚類について	B14 m: 磯崎行雄・加瀬友喜・林隆太郎 南部北上帯ペルム系岩井崎石灰岩から産した巨大巻貝と二枚貝	C14 w: 山梨純平・高柳栄子・伊佐地彩加・浅海竜司・井龍康文 ヒレナシジャコの殻の酸素同位体組成を用いた海水温復元の信頼性および問題点
A15 w: 池田忠広・三枝春生・太田英利・半田久美子 兵庫県下部白亜系篠山層群産カエル類およびトカゲ類化石について	B15 w: 指田勝男・田中源吾・上松佐知子 スウェーデン上部カンブリア系エイラム頁岩から産するコノドン	C15 w: 野村律夫 堆積フラックスの低下と底泥環境の変化：中海における人工河川・加茂川との関係において
A16 m: 武川愛・青木良輔・平山廉・吉田将崇・昆彭生 早稲田大学本庄考古資料館所蔵の台湾新第三紀産ワニ類化石について	B16 m: 松崎賢史・鈴木紀毅・西弘嗣・高嶋礼詩 下北沖における過去74万年間放散虫生層序	C16 w: 小林小夏・北村晃寿 静岡県清水平野に見られる津波堆積物と安政東海地震による隆起の古生物学的・地質学的証拠

<p>A17 w: 高橋亮雄・Setiyabudi Erick・平山廉 ジャワ島中部の更新統から発見されたセマルハコガメ属 (イシガメ科) の化石の分類学的位置づけについて</p>	<p>B17 w: 佐野佳緒里・柏木健司 手取層群貝皿層から産したジュラ紀中世放散虫化石</p>	<p>C17 w: 大路樹生・大石雅之 岩手県田野畑村羅賀の津波石はどこからきたのか?</p>
<p>A18 w: 吉田将崇・平山廉 モロッコ上部白亜系より産出したウミガメ科 (カメ目) の頭骨</p>	<p>B18 w: 西弘嗣・高嶋礼詩・折橋裕二・山中寿朗・林圭一・白井孝明・藤森裕史・今井利矩・尾松圭太 白亜系・蝦夷層群の統合層序とU-Pb年代</p>	<p>C18 m: 上端智幸・河瀨俊吾・保柳康一 NZ南島東方沖陸棚斜面 IODP Site U1352における第四紀後期の底生有孔虫群集と古環境変動史</p>
<p>A19 m: 平山廉・栗原憲一・加納学 北海道三笠市の上部白亜系三笠層より産出したカメ化石</p>	<p>B19 w: 白井孝明・鈴木紀毅・高嶋礼詩・西弘嗣・井龍康文・小川草平・高柳栄子 南東フランス・Vocontian堆積盆地における下部-上部白亜系境界付近の放散虫生層序の検討</p>	<p>C19 m: 板木拓也・池原研・山田安美・本山功・多田隆治 完新世の気候変動に応答した対馬海流の流路変化: 放散虫化石群集に記録された痕跡</p>
<p>A20 m: 平山廉・岸本眞五・三枝春生・池田忠広 兵庫県洲本市の和泉層群 (後期白亜紀) より見つかったウミガメ類の頭骨</p>	<p>B20 m: 岩見崇弘・指田勝男・上松佐知子 足尾山地南部の群馬県梅田地域に分布する中生層</p>	<p>C20 m: 今井遼・佐藤時幸・井龍康文 石灰質ナンノ化石からみた後期新生代の北西太平洋および東インド洋の古海洋変動</p>

【11:45-13:00】 昼休み

## 【13:00~14:00】 化石友の会 ひとつはく恐竜ラボツアー

定員：約 20 名

集合場所・時間：ひとつはくの古生物学会の受付付近に午後 1 時集合

問い合わせ申し込み先：[friends@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp](mailto:friends@palaeo-soc-japan.sakura.ne.jp)

電話：029-861-2554

参加するには学会参加費 1000 円が必要です。

学生、高校生ポスターセッション関係者は無料です。



### \*\*\*\* 3. 発表方法と発表機器についての注意事項 \*\*\*\*

#### <一般講演（口頭発表）をされる方へ>

- 発表時間は、講演 12 分、質疑応答 3 分です。時間厳守でお願いいたします。
- 使用機器は事前申告制です。講演番号に続く w, m の文字は、プレゼンに使用するパソコン OS の略号です。w:Windows (OS 指定なしを含む), m:Mac。
- Windows は Power Point 2007 バージョン, Mac は Power Point 2008 バージョンのインストールされた PC を用意しています。プログラムの進行上, ご自身のパソコンを持ち込んでの講演は原則としてご遠慮ください。なるべく一般的なフォントを使用し, Windows の方は可能であればフォントの埋め込みをお願いいたします。
- 各講演者は, 講演用ファイルを USB メモリー等に保存し, ご持参ください。ファイル名は, 「C03\_Yabe.ppt」のように, 「講演番号, アンダーバー, 筆頭講演者名, 拡張子 (.ppt)」(すべて半角) として下さい。
- データの受け渡しは, データ受付 (大会本部前: x ページ参照) で行ってください。1 月 24 日 (金) の午後から受け付けます。混雑が予想されますので, 時間の余裕を持ってお越し下さい。受付時に作成した OS の種類と Power Point のバージョンを必ずお知らせください。

#### <ポスター発表をされる方へ>

- ポスターのサイズは横 180 cm×縦 100 cm以内、画鋏可です。一発表につき横 90 cm×縦 200 cmのボード 2 枚の上半分を使用します。
- ポスター発表のコアタイムは, 1 月 25 日 (土) 13:00-14:00 ですが, ポスターは前日の昼から貼ることができます。なお, ポスターは 1 月 25 日 (土) 17 時まで撤収して下さい。詳しくは会場受付あるいは会場係までお尋ね下さい。

#### <会場および発表方法・機器などに関する連絡・問い合わせ>

三枝春生(兵庫県立人と自然の博物館) E-mail: saegusa@hitohaku.jp

電話: 079-559-2001, FAX: 079-559-2007

行事係: 佐々木猛智 (東京大学総合研究博物館) E-mail: sasaki@um.u-tokyo.ac.jp

- 
- 懇親会について 本プログラム ii ページ参照。

#### ●昼食に関する情報

昼食は博物館付近のダイエー・コンビニ等をご利用できますが, 1 月 25 日の昼食については, 24 日の受付にて弁当 (500 円) の予約を受け付けます。12:00 から休憩所にて配布いたしますので, 申し込まれた方は予約券をお持ちください。

- 館内での飲食は所定の場所 (休憩所, 学会各会場) にてお願いいたします。ホロンピアホールおよび人と自然の博物館の建物内は禁煙ですので, お煙草は博物館 4 階入り口外の指定の喫煙所をお願いします。

- 盗難対策 最近, 本学会を含め, 学会開催中の盗難が報告されています。貴重品は各自の責任で管理をお願い致します。

\*\*\*\* 4. 会場案内 \*\*\*\*

